



# IUFRO-J NEWS

No. 13 (1980. 11)

## 1980 理事会 (モスコー・ソチ) 報告

9月13日～18日の間、ソ連のモスコー市とソチ市で理事会が開催されました。第17回日本大会までいよいよ1年足らずとなり、その準備に関連した討議が日本理事会の最も大きな議題とされていたため、常任オブザーバーである松井組織委員長を補佐するため、組織委員会事務局から筆者が出席の機会を与えられました。

正式の理事会全体会議は、モスコーのほぼ真南で約1,400 km はなれた黒海沿岸のソチ市に移ってから、18、19両日にわたって行なわれましたが、各種委員会は15日から随時開催されました。第17回日本大会のための企画委員会とでもいえる Congress Program Committee は、サムセット前会長が主宰し、リーゼ会長、佐藤副会長、6名の部会長(第3部会は副部会長が代理出席)、松井組織委員長、バイン事務局長らが参加して、13日終日にわたって詳細な討議を行ないました。この委員会の討議内容は、後日の全体会議に報告され、そこで総括的な検討・意見交換が行なわれました。両会議の席上、リーゼ会長は経過報告の中で、本年3月初旬来日時にじかに見聞した日本組織委員会関係者の努力と、これまでの労を全理事に紹介し、深心な謝意を表明されました。以下、本理事会をとおして討議されたことを項目をわけご紹介いたします。

### 1. 第2回サーキュラー

第2回サーキュラー(案)は前もって全理事に送付しておきましたので、その後の修正部分を補足的に説明して骨子についてはほぼ原案どおり了承されました。英語圏からの2、3の理事は仔細に目をとおしており、表現上の修正をしてくれました。(このサーキュラーは、11月末までに印刷を完了する予定のため、理事会での意見、修正やその後の情報を含めて、目下成案をいそいでいます。)

### 2. 特別講演

日本大会の会期中、9月8日～11日の4日間、毎朝9時から予定されている特別講演の演者の中3名の方々が確定しました。渡辺武氏(日米吹委員会・日本委員長、元アジア開発銀行総裁) Dr. Marco A. Flores RODAS (FAO 林業局長)、Mr. Max PETERSON (米園林野庁長官)の3方で、もう1名については、いろいろな意見、提案はありましたが、結局会長に一任され、10月中にはきまるものと予想されます。

### 3. 研究集会のテーマ

第2回サーキュラーで、各大会分科会が行なう研究集会のテーマを公表することになっていますが、これまでのところ、第1、2、6の各部会は編成作業がやや遅れていることがわかりました。招待論文発表者の確定を含めて、本年末までに編成を完了することが申合わされましたが、サーキュラーの原稿は遅くとも11月上旬に完成しなければならぬため、部会によって精確があることになりそうです。しかし少なくとも大会分科会の編成はできていますので、討議論文(voluntary papers)などを準備するメドはたてられると思います。

なお特記したいことは、とくに第2部会で、日本の研究者による積極的なセッション編成が期待されていることです。一部の会場については、全面的に編成をまかされており、早急に構想を検討して部会長に申入れる必要があります。その他の部会でも、程度の差はあれセッション編成に日本の研究者の協力が期待されていますので、できるだけ早く具体的な意見を関連のローカル・コーディネーターにご連絡下さい。

#### 4. 部会間の合同集会

第 1, 2, 3, 4 部会の全体合同集会を開催することが合意されました。テーマは、“林業自身にたいする林業のインパクト”で、9月10日(木)の午前の部があてられます。招待論文発表者など詳細は未定ですが、まず全体会議で話題提供が行なわれ、一旦いくつかのグループに分れて討議を深めたのち、再度全体会議で総合的な討議を行なう構想のようです。

ほかに、部会の中の特定のグループが、他の部会の特定のグループと合同して集会をもととする、いわゆるジョイント・セッションがいくつか計画されています。これまでに確認されているものは、P3.01: P5.03, S4.02: S6.02: S6.05, S4.01: S4.02: S6.02, S1.07: S2.01です。

#### 5. ポスター・セッション

これまでのところ各部会長への申入れはごく限られているようです。本大会の新しい試みでもあり、日本の研究者が積極的に参加してほしいという意見がでました。また、ポスターによる発表者も討議論文のような資料を持参して配布してくれるとよいがという意見もありました。この件についての論議を通して感じたことは、第2回サーキュラーで要旨提出用の特製用紙が配布されないと参加希望者に実感がわかないのではないかとということ、このはじめての試みを成功させるには日本の研究者がふるって参加する必要があるということです。

#### 6. 大会までのこんごのスケジュール

本誌前号(3ページ)に、大会参加・発表準備の手順を中心にこんごのスケジュールをご紹介しましたが、組織委員長からこの予定を説明して協力を要請したところ、全面的な賛同がえられ、とくに各部会長はプログラム編成、招待論文・ポスター発表要旨の提出期限遵守・それらの作製内容のチェックなどに最善の努力をほらうことが確認されました。

なお、前号(3ページ)の表には、最終しめきりを明年7年31日と予定しましたが、外国からの送金に意外と日数がかかるという事情を配慮して、理事会では6月30日案を提案し了承をえました。なお、国内参加者については7月31日をしめきりにする予定です。

#### 7. 会場の配分

エジンバラ理事会で合意されていた33大会分科会にたいする会場割りつけの組織委員会事務局案を大会プロ

グラム委員会で説明し、部会ごとに大会分科会さらにはセッション別の会場使用計画を暫定的にかためました。まだ分科会の内容が未定の分野があり、全体を同じ程度に確定することはできませんでしたが、京都国際会館に予約してある約40会場ではほぼ満足のゆく割りつけができる見通しです。

#### 8. 参加者をふやすためのPR活動

本年9月2日現在のアンケート集計結果(前号5~6ページ参照)を紹介し、ほぼ確実に参加する人が203名、不確かな人を加えてもまだ400名弱であることを認識してもらい、こんごのPR活動の方策を論議してもらいました。各国の各種林業関連誌に告示を掲載してもらうようにはたつきかける意見があり、各理事が身近かのものに連絡をとることが申し合わされました。

ユフロJの会員機関にもすでに届いていると思いますが、組織委員会で作製したポスターを持参して理事会で紹介しました。大変な好評でもう少し余分に持ってくればよかったと思ったくらいでしたが、このポスターが、世界各地のユフロ会員機関や関連の機関に掲示されて、各国研究者の参加意欲がかきたえられることを期待しています。

#### 9. 発展途上国少壮研究者招へいのための財源発掘

第16回大会にさいして、ノルウェー国際開発事業団(NORAD)は特別なフェローシップを提供し、約50名の発展途上国少壮研究者の参加を可能にしました。この前例にならって、第17回大会にもできるだけ多くの発展途上国少壮研究者が参加できるよう、先進諸国からの理事が財源を発掘する努力をすることがエジンバラ理事会で申し合わされていました。本理事会ではこれまでの情勢が報告されましたが、前回のNORADが5名分の提供を約束したほか、西独の国際協力担当機関が数名分を提供する見通しであることが判明しました。わが国でも、国際協力事業団の研修計画に本大会参加を含めた特別コースなどを要求中である旨が紹介されました。

#### 10. 大会勧告一起草委員会の設置

大会閉会式において勧告を提案、採択するのが例となっていますが、その勧告案を起草する委員会が本理事会で正式に発足しました。その構成は、委員長 Prof. Sundberg(理事, スウェーデン), 委員 Prof. Carneiro(理事, ブラジル), Prof. Plochmann(第4部会長, 西独), Dr. Johnston(英国), 浅川(日本)です。本理事会期間中も若干の予備的品合いはありましたが、こんご

文通によって意見を交換し、明年4月のウイーン理事会の機会に正式な全会をもつことになっています。

#### 11. その他

第17回大会直前の理事会日程、大会時の本部事務局の開設日程、プロシーディングの印刷に関連したことが討議されました。

また、明年3月にリーゼ会長、バイン事務局長が来日され、組織委員会と最終的な打合わせを行ないたい旨の申し入れがありました。

なお明年の理事会は4月25日～5月3日の間、オーストリア・ウイーンで開催することがまじりました。

(浅川澄彦)

### 委員会の動き

#### ★第3回募金委員会

日時：昭和55年9月24日 15:00～17:00

場所：赤坂見付 額川事務所

出席者：塩谷、筒井、佐々木、大矢、小島、山家（若江代理）ほか事務局関係者5名

議事：

(1) 塩谷募金委員長のあいさつの後、土井運営委員長より大会準備の経過ならびに募金関係の経過報告が次のごとくなされた。

1) 大会準備については9月下旬のモスクワ理事会において、第2回サーキュラーの審議、プログラムの決定がなされ、それにしたがって各ディビジョン毎にコングレスグループの各セッション内容の検討がこれから進行すること、ならびに開閉会式、レセプション等の接遇関係、エクスカーション・コース内容、同金額概算などについて審議されたことが報告された。

2) 募金関係については、現在、経団連割付にしたがって積極的を募金活動が行なわれている旨、報告がなされた。

3) その他、大会収入予算案、予算組立案、日経新聞の記事などについても説明があり、新聞記事に関連して大矢氏、筒井教授より毎日新聞にのせる原稿「問われる現代の林業」について紹介があった。

(2) 次いで議事に入り今後の募金の進め方について検討し、大要次の結論が得られた。

1) 林試、大学関係で募金の遅れているところをさらに推進する。

2) 一般経済界に対しては、経団連割付の各団体ならびに傘下企業その他の企業の募金を進める。その際、それぞれ担当者を決め、チームづくりをして募金体制を強

化する。

3) 募金委員の大学の先生方にも一般経済界の募金にそれぞれの地区において協力をあおぐ。

#### ★エクスカーションのブロック会議

エクスカーションの現地ブロックの会議が次の日程で行われた。7月25～27日北海道地区、8月25～27日東北地区、8月29～30日九州地区、9月16日関西地区、9月25日関東中部地区。

出席者はコーディネーター、各県、局、育種場、林野庁、J.T.B.事務局で、協議事項は、スケジュールの検討、展示板を始め各パンフレット類などの資料の作成方法、現地での接遇問題などであった。

コース関係者が一堂に会して協議を行ったのは今回が初めてで、レセプションの形式・宿泊施設など共通の問題、あるいは視察箇所を始め、コースの日程の検討、現地での配布資料の作成の基準などについて具体的な打合わせが行われた。

また、ほとんどのコースがこの後9月から10月にかけて現地コースの踏査に入る予定で、昼食の場所やティータイムの設定などの細かいチェックはその際現地機関とも協議の上決められることになった。

#### ★協力会、部会、事務局関係

8. 22 エクスカーション・コーディネーター会議。

1. 第2回サーキュラー案について。
2. その他。

8. 27 総務部会

1. 京都国際会館会場配分案について。
2. その他

9. 4 財務班打合せ会。

1. KICH 会場配分案に基づく経費積算について。
2. その他

9. 5 モスクワ理事会打合せ会。

モスクワ理事会に提出する資料（主として第2回サーキュラー）について。

9. 10 財務班打合せ会。

予算積算内容の再検討について

10. 7 エクスカーション・コーディネーター会議。

1. 第2回サーキュラー案について。
2. その他。

10. 16 エクスカーション・コーディネーターとJTBT

との打合せ会議。

## ユフロのあけぼの

ユフロが結成されたのは今から 88 年前のことです。19世紀後半のヨーロッパは林業革命の時代ともいわれています。工業の進歩によって木材需要の内容が大きく変わってしまいました。鉄道は木道といわれるくらい、枕木、車体、柱用に材木を消費しました。石炭産業は、燃料用材の需要を減らしたかわりに、大量の坑木を必要としました。タール用の松脂とかウルシ科の木からとれるテレピン油の需要も増大しました。ナラの樹皮を多く用いた皮なめし工業も大躍進をとげます。そして 1850 年度に 100 万トンだった世界の紙生産高は、1900 年度に 8000 万トンにもふくれ上がりました。

19世紀はまた、これまでの濫伐がたたって洪水が続出し、土壌浸食が各国で問題化した時代です。山岳林を保護する保安林制度、造林面積を増やすための法的措置が競って行われています。我も我もと都市への人口流出が顕著となり、それまでとちがって田舎で造林地を確保することはたやすくなってきました。近代国家・近代林業は濫伐から統制のとれた伐採への方向転換を真剣におし進めました。

意欲的な植林政策により、新樹種の導入が成功したところもある反面、同齢一斉林の壊滅的虫害などのマイナス面も露呈されました。

ドイツ林学は花盛り。林業専門学校・大学の林学部・林業試験場が各国・各州で開設され、その活動が軌道にのりはじめました。また政治的にはドイツ系のヨーロッパ人を統合しようとする大ドイツ主義の運動が盛んであり、それに呼応して汎ヨーロッパ的に林業の共通問題を話し合う機運が熟してきました。

時に 1890 年 9 月 1 日～6 日、オーストリアのウィーンで国際農林業会議が開催されました。この会議には 7 部門ありましたが、第 6 部門「林業」は 253 人の会員をかかえ、二番目に大きい部会でした。この第 6 部門は更に A～F の 6 分科会に細分され、E 分科会「林業の試験研究」の会場でマリアブルン林試（ウィーン）の場長代理 K. ビューマーレ（彼は森林蓄積量調査で各国の不統一に困っていた）が次のように重要な問題提起を行いました。各試験機関の独自性に干渉しない形で、お互いに共同で試験したり解析したりできるように組織問題を考えてみませんか、と。

長い討論の末、K・シューベルク（カールスルーエ林業専門学校）が結論をまとめました。すなわち、参加意志のある各国代表で新組織に関する特別委員会をつくり、形式と規約とを決めるといふもの。早速、フランス・ス

イス・ドイツ・オーストリア・ハンガリーの各林試場長（大い大学教授を兼務していた）5 人からなる委員会が発足することとなりました。

翌 1891 年 9 月 16 日～18 日、マリアブルンの林試場長フリードリヒ主唱のもとに、ドイツのバーデンヴァイラーで委員会が開かれました。これにはハンガリーを除く 4 国代表が出席し、林業試験研究機関の国際連合組織をつくること、各国（州）政府が批准すべき規約などがとり決められました。

そしてついに 1892 年 8 月 17 日、ベルリン北方ニーベルスヴァルデで全ドイツ林試連合大会が行われた際、「全ドイツ各州林試連合およびスイスとオーストリアの林業試験場は、1891 年 9 月 18 日バーデンヴァイラーでの決議と各国政府の批准とに従い、ここに林業試験機関国際連合を結成する。」とユフロは高らかに産声をあげたのであります。

翌 1893 年 9 月 10 日～16 日、ウィーンで第一回世界大会が開催されました。規約第 4 条によりユフロの初代会長は大会開催地の林試場長フリードリヒでした。オーストリアからは勿論のこと、ドイツ各州、イタリー、ハンガリー、スイスから数多くの技術者・研究者が参加しました。この大会で大きくとりあげられたのは測樹学の用語統一問題や、良質の種子の供給・交換に関する問題であったといわれています。第一回大会の成果は 130 頁の報告書にまとめられました。（事務局 若林隆三）

## IUFRO NWS No. 28 (2/1980) 抜粋

### 研究集会の報告

立地区分 (S1.02.06)、立地要因の定量的研究 (S1.02.07) の合同集会（オーストリア、ウィーン；1980.5.6～9；13 개국 35 名）、“苗木の品質評価技術”と題した S2.01.00、S1.05.04、P1.04.00 の合同集会（ニュージーランド、ロトルア；1979.7.30～8.10；10 개국 37 名）、森林計画と経営経済 (S4.04.00) の集会（ポーランド、ダンチヒ；1980.6.1～5；8 개국 約 40 名）、第 5 部会合同集会（英国、オクスフォード；1980.4.8～16 詳細は本誌 11 号 p. 8～10 を参照）、竹類の生産と利用 (P5.04.00) の集会（シンガポール；1980.5.28～30；13 개국 21 名）の概要。

### 研究集会の予告

- S1.01.01 “原生林の諸問題” ポーランド、ピアロウィエス；1981 年 9 月
- S1.05.05 間伐試験 ハンガリー・スロヴァキア；1982 年（時期未定）

- S1.07.09 "マングローブ林の生物学と経営" PNG, ポートモレスビー; 1980.7.21~29
- P1.04.00 "ポット育苗" カナダ, トロント; 1981年9月
- P1.06.00 カシ木の改良 ニーゴスラヴィヤ, サグレブ; 1980.10.16~18
- S2.01.06 "熟茶種子の検査" (国際種子検査協会 林木種子委員会と共催) メキシコ; 1980.10.13~17
- S2.05.01 "針葉樹の根ぐされ・根株ぐされの諸問題" ポーランド, ポズナン; 1981.9.21~26
- S2.08.00, S1.08.00 共催 "野生鳥獣棲息地としての造林地および被害の諸問題" ギリシャ, アテネ; 1980.9.25~10.3 の第1部会合同集會期間中に開催
- S3.02.01, S3.02.02 "更新のための工学システム" (米園農業工学会と共催) 米国ラレーイ; 1981.3.2~6
- S4.01.00 "固有樹種の混交林における生長と収獲" フィリピン, ロスバニョス; 1981.1.26~31
- P4.02.00 "幼齡林の集約間伐に関する生物学的, 産業的および経済的視点" 西独ゲッテンゲン; 1980.9.29~10.4

### アンケートの中間集計

第17回世界大会への出欠のアンケート調査について、11月1日現在の集計結果は次のとおりです。前号でお伝えしましたものより129名増え、合計497名が回答を寄せられました。確実に参加する人は243名にとどまっています。12月に第2回サーキュラーが発送され、参加申し込みを受け付けることとなりますが、それにむけて、PRに皆様の格段のご協力をお願いします。

#### 1. 地域別

地 域	A	B	C	不明	計
ア ジ ア	52	32	8	0	92
中 近 東	6	3	2	0	11
ヨーロッパ	92	95	8	12	207
ア フ リ カ	16	9	0	0	25
北 米	59	53	2	5	119
中 南 米	4	10	1	0	15
大 洋 州	14	13	0	1	28
計	243	215	21	18	497

#### 2. エクスカーション・コース別

コース	A	B	C	不明	計
1	16	18	1	0	35
2	14	9	1	1	25
3	13	8	0	2	23
4	16	14	2	0	32
5	11	17	2	0	30
6	16	11	0	4	31
7	7	8	1	0	16
8	11	10	1	0	22
9	19	14	3	0	36
10	16	8	1	1	26
11	8	5	0	0	13
12	11	9	0	0	20
13	9	4	0	1	14
14	14	13	0	0	27
小 計	181	148	12	9	350
不 明	46	58	9	9	122
不参加	16	9	0	0	25
計	243	215	21	18	497

#### 3. 部会別

部 会	A	B	C	不明	計
1	54	48	6	5	113
2	46	59	4	8	117
3	24	18	4	1	47
4	32	22	4	1	59
5	37	31	1	1	70
6	30	18	1	1	50
不 明	20	19	1	1	41
計	243	215	21	18	497

(注) 参加の可能性の表示

A: ほぼ確実に参加する

B: 参加したいが、不確か

C: 参加できそうにない

ポスターセッションに申し込もう

本号に刷り込んだ FORM (様式) のコピーに英文 (または独・仏文) で書き込み, IUFRO-J 事務局 (国立林試内) へ年内にお申し込み下さい。発表者の姓名, 所属機関, 同住所, 発表題名, 発表を希望する部会 (1~6 の中から一つを記入) の全てが必要です。

ただし, すでに直接該当する部会長に申し込まれた方, 第2回サーキュラー (12月中旬配布予定) の FORM-A により直接該当する部会長に申し込む予定の方は, 今回申し込む必要はありません。

ポスターセッション申込み用紙

APPLICATION FORM FOR POSTER SESSION

Name of contributor (Family name, First name):

Affiliation:

Mailing address:

Title of presentation:

Division no.:

IUFRO-J NEWS No. 13

昭和55年11月1日

編集: 国際林業研究機関連合-日本委員会事務局

発行: 農林水産省林業試験場